

授業デザイン・ブラッシュアップ入門編 (インストラクショナルデザインの視点から)

石井 研司 (辻調理師専門学校／辻静雄料理教育研究所／九州大学大学院)

テーマ

インストラクショナルデザイン (Instructional Designs: ID) を活用した授業分析に関して、ワークショップを開いた。初級者を対象としたため、ARCS モデルを紹介した。ARCS (Attention, Relevance, Confidence, Satisfaction の頭文字) の諸特徴を踏まえた上で、参加者のシラバスまたは各授業回の活動などを ARCS の視点で分析してもらい、改善を検討してもらった。

ラウンドテーブルのまとめ

参加者からは「授業を進めるために必要なさまざまなノウハウを勉強できました。特に、グラウンドルールについては、後期授業から出来るところから実践しています。また、学生レポートに対するコメント有無で成績は変わらず、教員の満足感だけであることについて、チカラの緩急の付け所の目安を頂けたと感じています。」「オンライン教材を提供しているが、ユーザーが学習した内容が初年次や入学前教育である場合、学習内容が入学後の授業内容や理解と直結しているとは限らないため満足感は得にくいかもしれないということが分かった。ID で学んだ“関連性”“満足感”をどう満たすのかが今後の課題と捉えることができました。また現場の先生方の授業展開などを確認することができました。」「さらなる学習意欲の向上や、その先の成果に導くために、もっとインストラクショナルデザインを学びたいと感じました。」「ID の視点でみるとシラバスをより構造化して、授業内でやるべきこと、どの授業目標を達成するための取り組みなのか、その後の授業回のどこと結びついているのか、などを明確にする必要があるように感じた。」などさまざまな意見があった。

一方で話題提供者としては、具体的な共有シラバスを用意して、特定の事例を基にシラバスの授業分析を協働で体験してもらう活動があれば、より ARCS の視点を習得できたのではと反省している点もある。全体としては、参加者らが普段の授業展開や指導に関して自由闊達に情報交換・共有を行っていたので、何らかの形で ID が手助けのツールやそのヒントになっていれば、そしてこれまで気付かなかった“新しい何か”を身に付けていてくれれば、話題提供者としては幸いである。